

幼稚園の人材確保支援事業 調査研究事業報告

令和5年3月

公益財団法人広島県私立幼稚園連盟



《 目 次 》

令和4年度幼稚園の人材確保支援事業 事業報告

I 調査研究テーマ	1
II 調査研究課題	1
III 調査研究の目的及び内容並びに達成状況等	2
1 目指す姿	2
2 目標	2
3 目標に対する達成状況	2
IV 実施事業	
1 発達障害のある園児等への対応支援の実施	4
2 同僚性を高めるための研修会	9
3 私立幼稚園・認定こども園の魅力発信事業	11
4 無料職業紹介事業の実施	15
5 令和4年度新採用教員研修会参加者への人材確保に向けたアンケートの実施	21
「令和4年度幼稚園の人材確保支援事業」調査・研究実行委員会	22

令和4年度幼児教育における人材確保支援事業 事業報告

I 調査研究テーマ

- ア 離職防止・定着促進
- イ 離職者の再就職促進
- ウ 新規採用の促進

II 調査研究課題

平成29年度から5年間、文部科学省の委託事業「幼稚園の人材確保支援事業」の採択を受け、マッチング体制の構築、幼稚園等の魅力を発信するイベント（幼稚園・認定こども園ナビゲーション（～YNナビ～））をはじめとする「新規採用の促進」、無料職紹介事業等の「新規採用の促進」、「離職者の再就職促進」、幼稚園における働き方改革や園運営の在り方研修会、更には、発達障害等気になる園児への対応を学ぶことなどにより「離職防止・定着促進」に取り組んできた。

人材確保の成果は、これらの一連の事業を厳選して継続していくことが何よりも重要であり、そのためには、広島県及び広島県教育委員会と連携しながら「人材確保支援」を実施していく必要があると考える。

このため、令和4年度は、これまで実施してきた事業の充実を図るとともに、園内における同僚性を高めることに着目した研修会を開催することにより、保育者のストレスや離職等、負と考えられる要素を軽減し、離職防止・定着促進を図る。

これらの取組は、幼稚園等の人材確保に寄与するものであり、さらには、教育・保育の質の向上につながるものである。

1 幼稚園教諭の離職防止・定着促進に係る取組

園内における同僚性を高めることに着目した研修会（全5回）を開催することにより、保育者のストレスや離職等、負と考えられる要素を軽減し、離職防止・定着促進を図ることを研究した。

2 新規採用の促進・離職者の再就職促進

私立幼稚園の魅力発信事業として、YNナビにおいて、園情報の提供、就職アドバイザーによる支援等を実施し、効果的な方策について研究する。また、無料職業紹介事業における求人・求職システムの改善や就職アドバイザーによる相談事業等を実施し、その効果を研究した。

Ⅲ 調査研究の目的及び内容並びに達成状況等

1 目指す姿

必要な教職員が幼稚園等で確保され、人材の定着により経験が深まることで、より質の高い教育・保育サービスが提供できている状況になるよう努める。

2 目標

- ① 県内の幼稚園等に勤務する教職員の平均勤続年数を前年度より延伸させる。
- ② 「わーくけんよう」による求職者の登録数（564件）及び紹介件数（68件）を前年度より増加させる。マッチング件数を5件以上とする。
- ③ YNナビの会場において、参加者のブース訪問数を増加させる。
- ④ 特別支援相談事業への参加園について30園を目標とする。

3 目標に対する達成状況

【目標総括表】

目 標		3年度		4年度
①	県内幼稚園等 教職員平均勤続年数・・前年度より延伸	7.9年	⇩	7.8年
②	「わーくけんよう」（無料職業紹介）			
	求職者の登録数・・前年度より増加	564件	⇧	662件
	紹介件数・・前年度より増加	68件	⇧	85件
	マッチング件数5件以上	1件	⇧	6件
③	YNナビの会場 参加者のブース訪問数を増加	2.38 ブース/人 ※令和元年度	⇩	2.15 ブース/人
④	特別支援相談事業 参加園数30園	30園	⇩	28園

※令和2，3年度コロナで中止

- ① 県内の幼稚園等に勤務する教職員の平均勤続年数を前年度より延伸させる。
昨年度と比較して延伸とはなっていない。今年度、単発の研修でなく、全5回の同僚性を高める研修会を開催したところであり、勤続年数を延伸は今後の研修効果に期待する。

平均勤続年数	平均勤続年数
令和2年3月末	7.8年
令和3年3月末	7.9年
令和4年3月末	7.9年
令和5年2月末	7.8年

- ② 「わーくけんよう」による求職者の登録数及び紹介件数を前年度より増加させる。
 広報の成果等により、「わーくけんよう」が認知されてきている。

年 度	求職者登録数	紹介件数	マッチング
令和元年度	207	16	5
令和2年度 (R3年1月末現在)	397	58	4
令和3年度 (R4年2月末現在)	564	68	1
令和4年度 (R5年2月末現在)	662	85	6

- ③ YNナビの会場において、参加者のブース訪問数を増加させる。

西部会場は近隣とは言え2会場での分散した開催となり、参加者に不便を生じさせた。

一方、東部会場は、初めてホテルで開催し、運営側も参加者も好評価であった。

積極的にブース訪問を行うよう役員等が声掛けを行うものの、訪問数には結びつかなかった。事前の丁寧な園情報によって、訪問数が増加する更なる工夫が必要である。

学生の訪問園数（平均訪問園数2.15園/人）

区分	0	1	2	3	4	5	6	7	10園	未回答	回答数
西部	4	49	43	12	10	5	4	1	1	16	145人
東部	—	11	46	26	17	1	—	—	—	—	102人

- 西部会場 令和4年6月25日（日） 広島県立産業会館・広島県健康福祉センター
- 東部会場 令和4年7月3日（日） 福山ニューキャッスルホテル

- ④ 特別支援相談事業への参加について30園を目標とする。

実施園数は昨年度を下回るものの、実施回数は上回る状況にある。

年 度	実施園	実施回数
令和3年度	30	55
令和4年度	28	57

IV 実施事業

1 発達障害のある園児等への対応支援の実施

集団生活に馴染みにくい園児や発達障害等のある園児に対して、保育者は、園児一人ひとりに見られる特性や状態をしっかりと把握したうえで、その園児に合った対応方法を探していくことが求められている。このような園児に対する対応方法を学び、どの保育者でも同じ対応ができるような環境をめざす。

保育者個人ではなく、園全体の保育スキルを向上させることが、保育者の離職防止、定着促進につながることを目的とする。

(1) 事業内容

ア 発達障害関係研修会の実施

発達障害に関し、造詣の深い講師による研修会を開催する。

- ・日 時：令和4年8月2日（火） 14時20分～15時50分 参加者20人
16時10分～17時40分 参加者30人
- ・開催場所：ANA クラウンプラザホテル広島
- ・講師：竹内 吉和先生（竹内発達支援コーポレーション 代表）

イ 県立特別支援学校の専任教育相談主任による支援

気になる園児への対応は、一人ひとり支援方法が異なるため、その支援方法を学ぶ必要があることから、広島県教育委員会と連携し、支援を必要とする園に特別支援学校の専任教育相談主任を派遣し、助言を受ける。

加盟園に対し、支援の有無の希望をとったところ、28園からの希望があったため、特別支援学校の選任教育相談主任が園に出向き、園が気になる子として示した園児の様子を把握し、助言等を受けた。

また、広島県教育委員会乳幼児教育支援センターの幼児教育アドバイザーの同行を求める園に対しては、調整を行い、幼児教育アドバイザーの派遣を受け、気になる子への助言とともに、園全体の保育に関しても助言を行った。

特別支援学校名	実施状況	
	2月までの実施	幼児教育アドバイザー同行数
広島県立広島特別支援学校	—	—
広島県立広島北特別支援学校	2園 5日	3
広島県立廿日市特別支援学校	4園 10日	2
広島県立呉特別支援学校	4園 4日	—
広島県立呉南特別支援学校	4園 10日	—
広島県立黒瀬特別支援学校	2園 6日	2
広島県立三原特別支援学校	—	—

広島県立尾道特別支援学校	1園 1日	—
広島県立福山北特別支援学校	9園 16日	10
広島県立福山特別支援学校	—	—
広島県立沼隈特別支援学校	2園 5日	—
広島県立庄原特別支援学校	—	—
計	28園 57日	17

(2) 課題

- 研修に関しては、今後、オンラインでの研修を推奨していくのであれば、機器の整備及びネット環境の整備が求められる。
- 発達障害のある園児等への対応は、まだ様々あることから引き続き研修会を開催していく必要がある。
- 参加者からも、このテーマでの研修会の継続開催の希望が多かった。
- 相談事業に関しては、研修会で学んだことや広島県立特別支援学校の選任教育相談主任からのアドバイスを実際に園で生かしていただきたいと思う。
- 気になる園児は年々増加する傾向にある。保育者が不安を感じることなく、また、負担に思うことがないよう、支援する必要がある。そのためには、今後も事業を継続する必要がある。

(3) 今後の取組

広島県教育委員会の協力を得ながら、引き続き同事業を実施するとともに、研修会等を開催し、タイムリーかつ必要な情報を提供していくこととする。

専門家による考察

研修会で講師を務めていただいた竹内 吉和先生から当相談事業の取組についてご助言をいただいた。その内容を記載する。

1 特別支援学校幼児教育相談相談事業について

広島県私立幼稚園等の特別支援教育の質の向上を図るものとして実施した、令和4年度の本事業の状況について整理し、考察を行ったものを報告する。本事業の成果を踏まえて、本県私立幼稚園等の特別支援教育の充実に向けての取り組みへと発展させたいと考える。なお、本事業は、令和2及び3年度に引き続いて実施されたものであり、本報告は過去2年間の成果を踏まえて今年度の進展について報告する。

2 相談内容

相談内容は、次のア～シの12に分類できる。

令和2及び3年度に比べてク、ケ、コ、サ、シの5つについての相談が増加している。年度を重ねて、特別支援教育を中心にしてあらゆる分野において各教諭が抱える問題点や悩みが具体的にになってきた。

- ア 小学校との円滑な接続などについての幼児教育の課題などに係る実態を把握し、指導カリキュラムや教材などにどのように生かすか
- イ 他の幼稚園等での好事例の紹介
- エ 幼稚園等が抱える課題などに対応した支援体制づくり
- オ 児童虐待防止、障害児支援などに係る関係機関（児童相談所、こども療育センター等）との連携・調整及び対応方針等について
- カ 幼児教育に係る情報提供・啓発活動に関すること
- キ 保護者等に対する家庭の教育力の向上に係る啓発について
- ク AD/HD（注意欠如/多動症）のある幼児への支援について
- ケ ASD（自閉スペクトラム症）のある幼児への支援について
- コ 知的発達症の幼児の支援について
- サ ひらがなや数字が書けない幼児への支援について
- シ 性教育について

3 特別支援学校のセンター的機能の活用について

令和2、3年度に引き続いて、特別支援学校のセンター的機能の活用を踏まえて、特別支援学校の相談主任等に派遣を依頼して、指導・助言等を行う仕組みを発展させた。

令和2、3年度と同様に、特別支援学校の相談主任等は、「園のよさを生かす」、「教諭のよい面を伸ばす」、「困っていることに対して具体的なアドバイスをする」、「組織の主体性を大切にする」等を共通理解し、園に寄り添って話を聞くことを大切にするとともに、教諭の変容を認識した上で指導・助言等を行ってきたことから、各園に安心感を生み、教諭が自信を持って業務を行うことや、円滑な園運営につながった。

令和4年度は、過去2年間の経験を生かして具体的な幼児への支援に繋がるように相談主任等が助言内容を工夫していた。

各幼稚園においても、過去2年間の経験を生かして、助言に基づく研修会等の開催や事例発表

や意見交換等を通じて指導・助言等に関する実践を蓄積するように日々努力していた。

4 相談件数

本事業に関わる令和4年度の相談件数は次のようなものであった。

幼稚園等16園 30件

5 具体的な相談内容

次の①～⑳である。

- ① 教室から飛び出す幼児への支援について
- ② 落ち着きがなく離席する幼児の支援について
- ③ 予定変更でパニックを起こす幼児の支援について
- ④ 偏食の対応について
- ⑤ 集団活動が苦手な幼児への支援について
- ⑥ 友達に対して「手が出る」幼児への対応について
- ⑦ 言葉の遅れに対する考え方と指導について
- ⑧ 着替えができない幼児への支援について
- ⑨ かんしゃくを起こす幼児の支援について
- ⑩ 絵画の制作の意味や理解が難しい幼児への支援について
- ⑪ 給食に時間のかかる幼児への支援について
- ⑫ 登園しぶりのある幼児への支援について
- ⑬ 姿勢の保持が難しい幼児への支援について
- ⑭ 指示が入りにくい幼児への支援について
- ⑮ 遊びのルールを理解が難しい幼児の理解について
- ⑯ おしゃべりが止まらない幼児への支援について
- ⑰ 会話がかみ合わない幼児への支援について
- ⑱ 過剰な愛情表現をする幼児の対応について
- ⑲ 教諭の話に集中できない幼児への支援について
- ⑳ 「物を投げる」幼児への対応について
- ㉑ トイレトレーニングについて
- ㉒ わが子の自傷行為についての母親からの相談への対応について
- ㉓ 母親をたたく行為をする幼児の母親からの相談への対応について
- ㉔ 男の子の陰部を触って遊んだり、自分も触って見てと言ったりする幼児への対応について
- ㉕ AD/HDの診断のある幼児への投薬についての相談
- ㉖ ひらがなや数字が書けない場合の指導についての考え方と方法
- ㉗ 異性と体の違いに関心が高い幼児への対応について

6 教諭の変容について

令和2、3年度と同様に特別支援学校相談主任等の指導・助言等により、教諭の変容につながったという意見が多く報告された。中でもAD/HD（注意欠如／多動症）のある幼児、ASD（自閉スペクトラム症）のある幼児への支援等の理解については、特に教諭の変容につながったという記述が多くあり、教諭にとって特別な支援や配慮を要する子どもへの関わりに大きな課題があることが改めてわかる。過去2年間の経験により幼稚園教諭が特別支援学校の相談主任等に対して

どのような指導・助言等を求めることができるかという点で理解が深まったことが推測される。

令和4年度は、特に幼稚園と小学校の円滑な接続ができるような取組を行えるよう、学級経営、国語や算数等の教科指導の成果を生かした数字やひらがなの指導、性教育等についての知識や取組についての助言も行われた。

3年間の本事業の結果、幼稚園教諭が相談主任等の助言を受けて、自己の実践する教育を振り返り、特別支援教育の観点から分析することができるようになった。

7 組織の変容について

令和2、3年度に比べて、令和4年度は特別支援教育をテーマとして教諭の間で意見交換をする機会はさらに増え、園内のコミュニケーションの活性化が組織の変容につながった。

令和2、3年度の報告でも述べたが、相談主任等の指導・助言等は、園運営全体においても、変容につながる実効性の高い取組であると確認できた。

8 保護者の変容について

令和2、3年度は相談主任等の指導・助言等により、教諭が指導に生かして保護者に具体的な働きかけを行い、結果として保護者の変容につながったという報告があった。

令和4年度の報告では、保護者の悩みを受けて、教諭が相談主任等との橋渡しの役割をしているという報告があった。さらに、保護者と幼児の関係を教諭が日頃から観察しており、保護者の悩みを教諭が推測して、相談主任等の指導・助言を求めるといったものもあった。

保護者の変容を促すべく、教諭の積極的な取り組みがなされていた。

9 子どもの変容について

令和2、3年度は、相談主任等の指導・助言等により、教諭が教育に生かすことから、子どもの変容が見られたという報告があった。

令和4年度は、相談主任等から指導・助言等を受けた教諭が、実践を試みて、再び指導・助言を求めて改善を試みるといったような報告があった。指導・助言→実践→反省→指導・助言というサイクルができてきた。この取り組みにより、さらなる子どもの変容につながることが期待できる。

10 今後の展開等

令和4年度の報告では、令和2、3年度を踏まえての考察を行った。

観点としては、各園等において、相談主任等から受けた指導・助言等を実施することにより、教諭、保護者、組織、子どもがどのように変容したかである。

令和4年度の各園から報告は、令和2、3年度を発展させた形のものも多くあった。

3年目を終えて、助言する特別支援学校の相談主任等と相談する園の教諭の協力する体制が深化しているように感じられた。何を相談すれば効果があり、どのように助言すれば理解が深まるかの双方向のやり取りが効果的になされていた。

本事業は継続することにより、発展するものであることを確信できた。

多くの園から今後も相談主任等を活用したいとの意見もあることから、各園の実情に応じた指導・助言等が、幼児教育の質の向上に大きく寄与していることが推察できる。

幼児教育の充実と発展に向けて、特別支援学校による幼児教育相談の活用は効果的なものであり、その充実に向けて今後も実践研究等を進めていきたいと考える。

2 同僚性を高めるための研修会（全5回）

（1）目的

保育の専門性を向上させ保育者が、気持ちよく長く働きたいと思える環境づくりのため、また学び合う風土づくりのために研修会を開催した。

（2）研修のテーマ

同僚性を高めるためのチームづくり「ファシリテーション・リーダーシップ」

（3）参加者資格等

応募資格：設置者、園長、教職員（5回全て参加できる方）

参加者：35人

（4）研修日程等

グループワークを中心とし、職名、経験年数を踏まえグループ分けを行った。

- 日 程：第1回 6月30日（木）14：30～18：30（4時間）
第2回 7月19日（火） //
 - 第3回 9月5日（月） //
 - 第4回 10月6日（木） //
 - 第5回 11月1日（火） //
- 場 所：広島ガーデンパレス2階「錦」（広島市東区光町1-15-21）
 - 講 師：学校法人小寺学園 秦 賢志 理事長

ア 第1回「わたしと出会う、仲間と出会う」

研修のねらい

- ・この研修の雰囲気を感じる ・この研修への期待を高める ・じぶん自身をふりかえり、仲間と少し深く知り合う ・ご自身のねらいを達成すること

イ 第2回「ファシリテーションと出会う」

研修のねらい

- ・ファシリテーションとは何かを知る ・ファシリテーターのあり方を知る
- ・コミュニケーションのあり方を知る ・ご自身のねらいを達成すること

ウ 第3回「チームと出会う」

研修のねらい

- ・チームとは何かを知る ・チームのあり方を知る ・チームの現状と目標を知るための手立てを知る ・ご自身のねらいを達成すること

エ 第4回「リーダーシップと出会う」

研修のねらい

- ・リーダー&リーダーシップとは何かを知る ・合意形成を体験する ・ご自身のねらいを達成すること

オ 第5回「問題解決と出会う」

研修のねらい

- ・問題解決を体験する ・新しいじぶんに気づく ・全5回の研修をふりかえる
- ・ご自身のねらいを達成すること

(5) 実施して変化があったこと、または期待している効果（参加者意見）

- 指示を出す際に、相手が理解しているかということを確認することで、意思疎通が出来るようになり、思いのすれ違いが減ってきた。そうすることで、ミスも少なくなり、信頼関係も以前より強くなってきていると感じた。
- 以前は多数派の考えと違う行動をしている人がいた場合に、不信感や疑念を抱くことがあったが、「なぜそうしたのだろう」と考えていくことで、相手にも考えがあること、それを伝えられる人がいないことなどが分かってきた。
- 今まで、出来ていないことに目が向いてしまいがちだったが、できたこと、変化したことに目を向けたことで、対話が広がり先生同士の関係性が良くなり、一人ひとりが課題に向き合い、チームの中で自分の意見に自信を持って発言し、他の意見も聞き入れながら学び合う姿が見られている。



3 私立幼稚園・認定こども園の魅力発信事業

(1) 目的

高校生や養成校で学ぶ学生、幼稚園等で働くことを希望する者等を対象に、幼稚園等の魅力を発信する事業を展開し、新規採用、再就職支援につなげ、幼稚園等の人材確保を支援する。

(2) 事業内容

ア 幼稚園・認定こども園ナビゲーション（～YNナビ～）の開催

高校生や養成校で学ぶ学生、幼稚園等で働くことを希望する者を対象に、幼稚園等の魅力を発信し、幼稚園教諭を目指す学生等が増加することを目的としたイベント（幼稚園・認定こども園ナビゲーション）をこれまでと同様に、県内2か所（県西部、東部）で開催した。

(ア) 開催日時等

○西部会場

- ・日 時：令和4年6月26日（日）10時～14時
- ・場 所：広島県立産業会館、広島県健康福祉センター
- ・参加園：44園
- ・来場者：145人

○東部会場

- ・日 時：令和4年7月 3日（日）13時～15時30分
- ・場 所：福山ニューキャッスルホテル
- ・参加園：26園
- ・来場者：102人

(イ) 具体的な実施内容

a 自園でのブース設置

- ・ 学生と現職若手教員との懇談
- ・ 教育実習やボランティア、園見学等についての情報提供 等



(西部会場)



(東部会場)

- ・ 当該養成校出身の教職員による魅力発信



(西部会場)



(東部会場)

b わーくけんよう相談コーナーの設置

- ・ 就職アドバイザーによる相談を実施。
- ・ 就職内定者に対しても、働くための心構えのアドバイス等を実施する。

(ウ) 課題と今後の取組

- ・ YNナビは幼稚園の魅力発信には効果的な事業であるが、開催に向けては、学生側により多くの園の話が聞ける機会を設ける必要がある。
- ・ JR駅近くのホテルでの開催は、園側、学生側からも好評であり、今後の選択肢の1つとして検討する必要がある。
- ・ また、より多くの学生に幼稚園の魅力を知ってもらう新たなPRの機会を検討する必要がある。
- ・ 参加した者がより多くのブースを回って、自分の得たい情報が得られるよう、支援する必要がある。
- ・ これまでは、幼稚園側が準備をし、養成校等の学生に参加してもらっていたが、養成校が開催する就職説明会に幼稚園側が出向いてPRすることも考えられるため、そのような機会があれば活用していくことも考えられる。

イ オンラインYNナビの開催

(ア) 開催日時等

令和4年8月20日(土) 13時から15時

参加園38園、参加者17名

(イ) 取組の効果、自己評価、今後の課題

- 参加園には、業者から当日の実施方法等を個別に説明してもらい、大きなトラブルもなく実施することができた。
- 学生への周知は、養成校を通じて実施した。参加には事前登録が必要であり、対面式ほど参加者が増えなかった。
- 参加者増を図るため、6月にはInstagramを立ち上げたが、もっと早い時期から

の取組をする必要があった。

- 3年度は対面式が中止となり、オンラインナビのみであったため150名の参加があった。4年度は対面式が実施できたため、県外校からの参加があったことは評価できるが、参加者17名は少なく、養成校の授業の一環として取り組んでもらえるよう働きかける必要がある。



ウ 園長による養成校での講演

(ア) 事業実施による成果及び今後の課題等

- ・日 時：令和4年12月11日（日）
- ・場 所：広島都市学園大学（広島市南区）

- YNナビの会場だけでなく、園長等が養成校に出向き、幼稚園の魅力発信に向けた講演等を1校で1人の幼稚園園長が講演等を行った。
- YNナビの会場だけでなく、養成校からの希望に応じ、園長が養成校に出向き、幼稚園の魅力発信に向けた講演を行っているが、コロナ禍の影響を受け、希望校が少なかった。
- 幼稚園の魅力発信する場として、様々な手段で実施できることを養成校に働きかけるとともに、要請があれば積極的に園長等を派遣することとする。

エ 養成校との意見交換会の開催（県内及び近隣県の養成校27校）

(ア) 開催日時等

- (西部会場) 広島国際会議場
5月19日（木）
16時30分～18時30分
参加：41人
養成校 18人
幼稚園関係者 21人
行政機関 2人



4 無料職業紹介事業の実施

幼稚園等の人材確保に向けて、広島県私立幼稚園連盟無料職業紹介所（わーくけんよう）において、就職アドバイザーを設置し、きめ細かな相談業務等を実施することにより、幼稚園・認定こども園の人材確保に資する。

また、現在運用中である求人・求職システムの機能を強化するとともに、業務の効率化を図る観点からシステム改善を行い、登録者に対するサービス向上を図る。

(1) 事業内容

ア マッチング支援及びシステムの改善

- 求人・求職システムを活用し、マッチングを行った。
- システムについては、次の改善を行った。

(ア) 依頼先 株式会社レイフロンティアデザイン
(求人・求職システム [わーくけんようサイト] の製作者者)

(イ) システムの改善

a 登録者

- ・ 会員登録時、希望勤務地域の入力必須化。
- ・ 登録完了メールの文面に新卒採用求人へのリンクを追加。

テスト太郎 様

この度は「わーくけんよう」にご登録いただきまして誠にありがとうございます。

下記のIDで会員登録が完了いたしましたので、このIDと登録時に設定されたパスワードにてマイページでログインし、引き続きプロフィールの設定をお願いします。

・ユーザーID: testtest2022

▼マイページ
<https://www.work-keryo.jp/mypage/>

▼パスワードを忘れた場合は
https://www.work-keryo.jp/mypage/password_reset.php

▼新卒採用求人の閲覧はこちら
<https://www.work-keryo.jp/newgrad/>

マイページから求人内容など、最新の情報が閲覧できます。

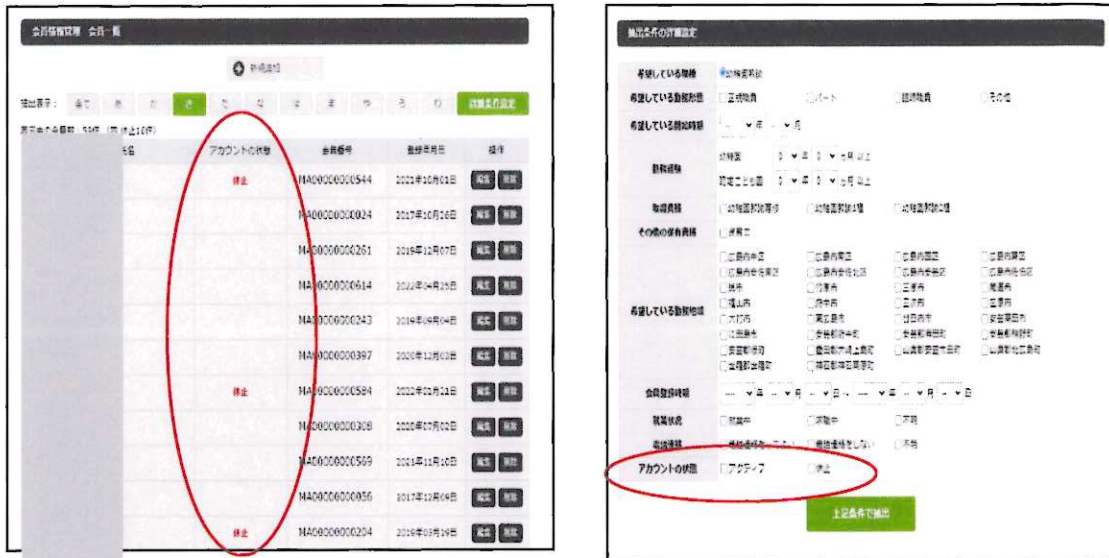
また、ご登録内容に変更がある場合は、ご登録変更をお願いいたします。そのほか、ご不明な点などございましたら、下記まで気軽にお問合せくださいませ。

わーくけんよう（広島県私立幼稚園連盟無料職業紹介所）
<https://www.work-keryo.jp/>
E-mail: <mailto:work-keryo@work-keryo.jp>
732-0052 広島市東区光町1-15-21広島ガーデンバース4階
TEL 082-259-3567

b 管理者ページの修正

- ・ 会員情報一覧画面に会員アカウントの状態（休止）を表示。
- ・ 表示中の会員数の横に休止の会員数を表示。

- ・ 詳細条件設定時、会員アカウントの状態のチェック項目追加。



(ウ) 「わーくけんよう」広報活動

- ・ 「わーくけんよう」の広報活動として、チラシを印刷し、園での退職者に退職金支給時に配布するとともに、各種イベント、セミナーで配布した。
- ・ 新卒採用向けの求人情報ページのチラシを作成し、学生への周知を図るため、養成校へ配布した。
- ・ 各種機関へのパンフレットの配布により、有資格者（第二新卒者や再就職者）へのPR活動を行った。

(ウ) 新卒者向け「就活ハンドブック」の配布

これまで作成してきている幼稚園への就職活動への参考としてもらえる「就活ガイドブック」を近隣養成校の学生へ配布した。



イ 就職アドバイザーによる就職支援

(ア) 目的

平成30年度から継続して実施している無料職業紹介所「わーくけんよう」に配置した就職アドバイザーによる求人・求職者に対する支援を充実し、県内の私立幼稚園・認定こども園の人材確保を支援する。

(イ) 事業内容

再就職を希望する者や幼稚園教諭の免許取得（予定）者で新たに就職を希望する者に対して、就職アドバイザーが求人・求職者双方から希望を聞き取り、それぞれの希望に応じた支援を行った。

a 主たるアドバイザー

NPO法人キャリアプロジェクト広島 所属講師 松永 佳世子氏
(K mind 代表)

資格：2級キャリアコンサルティング技能士（国家資格）、JCDA認定CDA

b 活動日及び活動開始日

切れ目のない支援が必要なことから4月より事業開始

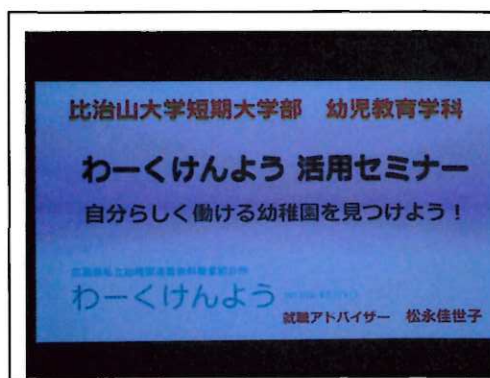
相談業務は、概ね月2回 13時～17時、その他 随時

c 実施業務

- ・ 求人・求職システムへの登録者等が満足していく成果（求職者の希望園への就職、園が求める人材の確保）を得られるよう支援を行った。
- ・ 求人活動が円滑に行え、採用につながるよう園への支援を行った。
(電話による支援、オンラインによる支援、園を訪問しての支援)

【具体的な取組】

- ・ 求人・求職の登録状況をチェックし、新規の求職登録者には、電話・メールにより登録の目的、現状を把握し、今後の対応を検討した。
- ・ 求人登録園には、求人票の記載方法など細かな助言を行い、マッチングの成立を促した。
- ・ 一斉メール等により、登録者へ求人情報等を発信した。
- ・ 新卒採用求人情報の掲載は、学生の登録増につながっており、登録時の電話連絡で学生への情報提供、就職支援も積極的に実施した。
- ・ 養成校において「わーくけんよう」の周知及び利用促進を図った。



(養成校訪問)

(ウ) 登録・マッチング状況

- 求人登録は、3月末時点で登録期間終了とし、4月には改めて登録してもらう方法に改善しているため、今年度も年度当初の求人登録は少なかったが、徐々に件数は増加し、これまでで最高の登録となった。
- YNナビ実施時に、参加者に配布していた出展園の就労条件一覧を、今年度は、「わー

くけんよう」のHPに記載されている「新卒採用求人情報」をもとに作成した。
よって、園の写真や所在地、PR等を盛り込んで記載することができた。

【登録状況】

(単位：件)

月	マッチング	求人登録	求職者登録	紹介
4月	0	9	592	8
5月	0	19	603	2
6月	0	21	615	13
7月	0	25	628	10
8月	1	30	635	10
9月	2	33	640	7
10月	2	35	646	7
11月	0	37	654	8
12月	1	34	658	5
1月	0	44	662	15
2月	0	46	662	7
計	6	—	—	92

【登録者の状況】 (令和5年1月末日現在)

① 性別

男性	37
女性	625
合計	662

② 年齢区分

10歳代	10
20歳代	339
30歳代	141
40歳代	105
50歳代以上	67
合計	662

(エ) 相談状況及び状況確認調査 (就職アドバイザー、当連盟職員)

- 電話やメールでの相談に対応するとともに、新規の登録者に対して登録した意図を確認し、マッチングに繋げるため、新規登録者には随時電話による状況確認調査を行った。

(件)

区分 件数	求人に関する相談	求職者からの相談	
			内学生数
4月	0	34	9
5月	1	9	4

6 月	0	3 2	6
7 月	2	2 9	8
8 月	1	3 0	4
9 月	2	1 5	3
10 月	0	1 9	3
11 月	2	1 2	1
12 月	1	1 5	1
1 月	1	2 7	3
2 月	0	2 2	0
累 計	1 0	2 4 4	4 2

a 電話相談内容

【求職者からの主な相談内容】

- ・ 勤務時間についてどの程度融通が利くのか知りたい。
- ・ ブランクがあるため、現場に出て通用するか心配である。
- ・ 車通勤が可能か、交通の利便性はどうか知りたい。
- ・ 求人票に対しての個別質問（時給、勤務時間）等

【求人者からの主な相談内容】

- ・ システムの入力方法がわからないため、教えてほしい。
- ・ 教諭が辞めるため急いで人を探している。
- ・ 求人票を作成したので内容を添削してほしい。等

b 面談による相談内容

【求人者からの主な相談内容】

- ・ 教諭の働きやすい環境づくりに向けて、どのように工夫したらいいか。
- ・ 養成校へ出す求人票の書き方について教えてほしい。
- ・ コロナ禍での学生の就活状況が知りたい。

(オ) 園訪問による求人側への支援

- 電話では対応しきれない面もあるということと、幼稚園の状況を把握したうえでの助言が重要ではないかとの就職アドバイザーからの提案により、来園を希望する求人者に対しては、訪問による支援を行った。

9月：1園（広島市：1園）

- 園を離れて相談に出向くことができない現場の教諭や事務担当者などと、複数人で相談できる。また、求人票に改善点があれば、その場ですぐにシステム入力の実演ができるため、システムの活用頻度の増加につながる。
- サイトの修正に関しても、同じ画面を見ながらの助言は、園側にも的確に伝わる。
- 園では日常的な活動が実際は園の特色や強みであること、日頃マイナスに捉えている

ことをどのように解決して効果的に伝えていくかなど、求人情報に加える際のアドバイスができた。

(2) 就職アドバイザーによる就職支援の成果

- 平成30年度から5年にわたり実施してきた、無料職業紹介所「わーくけんよう」に配置した就職アドバイザーの相談業務は、きめ細かな対応により、求人側、求職側に有効に機能している。
- 年度当初計画していた事業がすべてはできなかったが、就職アドバイザーが講師を務める大学での講義等は、「わーくけんよう」の認知を高める良い機会となった。また、その場での登録もスマホを通して操作できるなどのメリットもあり、登録者の増につながった。

(3) 無料職業紹介事業の課題と今後の取組

- 求人・求職システムは、県内において定着しつつあり、引き続き、改善を加えながら広報し、登録者の増加を図り定着させる。
- 就職アドバイザーの高いスキルによって、求人、求職両者に対して、きめ細やかな支援ができた。
- 求職者に積極的にアプローチし、マッチングを増加させることが大きな課題と考える。
- セミナー等ではきめ細やかな対応、高いスキルが評判となり、徐々に周知が図られてきた。
- 就職アドバイザーからの提案もあり、改善された部分も多くあり、就職アドバイザーの支援は、求職者、求人者にとってもその存在は大きいと考える。

5 令和4年度新採用教員研修会参加者への人材確保に向けたアンケートの実施

平成29年度に文部科学省の委託事業で実施した「人材確保に向けた調査研究」では、幼稚園教諭及び養成校の学生に対して「人材確保に向けたアンケート調査」を実施し、分析を行った。

その後毎年度、教諭対象の調査（29年度調査）から抜粋した項目を、新採用教員研修会の参加者に対してアンケート調査を行い、比較検討することにより、今後の業務の参考としている。

（4年度調査）

令和4年度は、調査項目は「就職先を決定する際の判断要素」と「今後の幼稚園教諭の継続意向」の2項目とした。詳細は別紙のとおり

1 調査項目

- (1) 就職先を決定する際の判断要素
- (2) 今後の幼稚園教諭の継続意向

2 調査結果

- (1) 就職先を決定する際の判断要素

- 就職する幼稚園等を定める際の判断要素としては、「(34) 園の雰囲気が良いこと」や「(35) 職場の人間関係が良いこと」など、園の人間関係に関する項目で「重要である」（「とても重要である」＋「まあまあ重要である」）が非常に高くなっている。これらの項目は、どの年度の調査でもほぼ同様の結果となっている。
- 令和4年度調査では、これまでの調査と同様に、「(34) 園の雰囲気が良いこと」や「(35) 職場の人間関係が良いこと」が高い割合となっている。4年度では、(34)、(35)に加え、「(22) 園の教育・保育方針が自分のイメージに近いこと」が50%を越す高い割合となった。一方、「(11) 土日が休みであること」の割合はこれまでの調査と比較して低い割合となった。

- (2) 今後の幼稚園教諭の継続意向

- 今回の調査では、「継続して働きたい」と考えている者が48.2%で、令和3年度調査（48.8%）に引き続き高い割合となった。一方、「結婚したら辞めたい」と回答した者は5.4%で令和3年度調査（3.1%）に引き続き低く、結婚後も継続する傾向にある。

3 結果から

- 働き続けたいと考える者が非常に多くなっており、これらの者が真に働き続けることができるような環境づくりを進めていくことが求められる結果となった。

「令和4年度幼稚園の人材確保支援事業」調査研究実行委員会

【委員会の開催状況】

- 令和4年 5月11日（水）第1回調査・研究実行委員会
主な議題 1 調査・研究実行委員会の設置について
2 今年度の実施事業について

- 令和4年11月28日（月）第2回調査・研究実行委員会
主な議題 1 事業の進捗状況について
2 来年度事業について

- 令和5年 3月 7日（火）第3回調査・研究実行委員会
主な議題 1 事業の実施報告について

【幼稚園の人材確保支援事業 調査研究実行委員会委員】

- 菊永 将浩 弁護士法人菊永総合法律事務所代表弁護士
- 菊野 秀樹 比治山大学短期大学部教授
- 樋野本順子 トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校保育社会福祉学科学科長
- 松永佳世子 K mind 代表 NPO法人キャリアプロジェクト広島所属講師
- 八百野 勇 広島県環境県民局学事課長
- 山本恵美子 広島県健康福祉局安心保育推進課長
- 桑原智津子 広島県教育委員会乳幼児教育支援センター長
- 住田 直之 (公財) 広島県私立幼稚園連盟理事長 (委員長)
- 山中 隆司 (公財) 広島県私立幼稚園連盟副理事長
- 清川 里佳 (公財) 広島県私立幼稚園連盟副理事長
- 水原 紫乃 (公財) 広島県私立幼稚園連盟副理事長
- 清信 真 (公財) 広島県私立幼稚園連盟理事
- 中丸 元良 (公財) 広島県私立幼稚園連盟理事
- 岡本 一哉 (公財) 広島県私立幼稚園連盟事務局長